

ナシ黒星病情報第1号

令和5年4月28日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ナシ果実で黒星病の発生を確認しました！ 感染に好適な条件が続くため、注意しましょう。

1 発生状況

4月下旬に行った巡回調査（県内28ほ場調査）において、ナシ黒星病の発病葉率は0.04%（平年0.15%、前年0.04%）で、平年並の状況です。しかし、複数のほ場において果実の発病が確認されているため、注意が必要です。

本病は、曇雨天が続くとまん延します。4月27日名古屋地方気象台発表の1か月予報によると向こう1か月の降水量は平年並が多いことから、今後発生量が増える可能性があります。

2 防除対策

- 発病した葉や果実は伝染源になるため、見つけ次第取り除き、ほ場外へ持ち出し適切に処分しましょう。
- 下表を参考に防除しましょう。FRACコードが同じ薬剤を連続して使用することは避けましょう。
- スピードスプレーヤーで防除する場合は、ほ場のすみなど薬剤がかかりにくいところは手で散布するなどして、かけ残しがないように注意しましょう。また、散布圧力を高くしすぎないように注意しましょう。

表 ナシ黒星病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分	使用時期	本剤の使用回数	FRAC コード
チオノックフロアブル	チウラム	収穫30日前まで	5回以内	M3
スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール	収穫14日前まで	3回以内	3
ベルコートフロアブル	イミノクタジンアルベ シル酸塩	収穫14日前まで	5回以内	M7
ネクスターフロアブル	イソピラザム	収穫前日まで	3回以内	7

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2022.pdfを参照する。

農薬の散布にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。